令和７年１月27日（月）15:00～16:00
府立阿武野高等学校　校長室

令和６年度　第３回学校運営協議会　議事録

１．開会
①校長あいさつ
②委員紹介
③事務局紹介
④会長あいさつ

２．令和６年度 学校経営計画の達成状況について（校長より）
・１年生はこれまで以上に多様な背景を持つ生徒が入学しており、生徒の実態に応じた学習指導、生活支援を行ってきた。授業に関しては、ICTの活用を活用したり、授業構成や展開の工夫、学習内容を調整したりするなど、各教科で教員がさまざまな工夫を行っており、生徒の学習に対する意識を高めることができた。一方、家庭での学習時間の少なさは依然として課題である。今年は学習支援クラウドサービスを活用することで、5分～10分程度であるが微増している。清掃については、生徒と教員の認識が大きくずれている。次年度は、清掃指導を学校全体でしっかり行う。

・進路指導について、三者面談や進路ガイダンスをしっかり行うことによって、生徒の進路への意識は向上しているが、教員はまだ課題があると考えている。専門コースについては、２年間の実習の中で、前回できなかったことができるようになった喜びが生徒の自信となっており、コース生の成長がコースを選択していない他の生徒にとても良い影響を与えている。

・本校ではあいさつ、遅刻をしないなど社会人としての規範意識の醸成を大事しており、年々遅刻件数は減少してきている。今年は、新たに３学年が同じスタンスで生徒に向き合う組織的な取組がスタートした。
コロナ禍の影響であるのか、友だちどうしのちょっとした行き違いによる人間関係のいざこざ、SNSトラブルなどに起因する生徒指導案件が増えており、自分たちでなかなか解決できないことも多い。本来小・中学生時代に経験しておくべきことを、今、経験しているようにも見える。例えば、友だちと思いや考えが異なったときに自分の気持ちをどのように伝えたらいいのかわからず、子どもどうしの衝突が起きている感がある。多様な背景をもつ生徒への対応については、心理的側面・福祉的側面からの支援が必要となるため、SC、SSWの方々にはずい分助言をいただいた。
今年は月１回、スマイル週間を設け、悩みなどを気軽に話せる場を設けた。

・オープンスクールは生徒会・クラブ員が中心となって行った。気になる生徒は、出身中学に連絡をし、中高連携を図っている。
今年度、HPに合わせてリーフレットをリニューアルした。今後、HPやブログだけでなく、Instagramなどを活用して阿武野高校の魅力発信しようと考えている。

（上記について、委員より）
・（清掃の件など）学校教育自己診断のアンケート結果について、生徒がどう思っているか、保護者がどう思っているか、教員とのズレをさらに丁寧に見ていただけたらと思う。
また、人間関係トラブルが増えている件については、中学校でも同じような傾向が見られる。今の中学生は喧嘩の落としどころがなかなか分からないし、折り合いをつける力が弱くなっていると感じる。
・SNSが普及されていなかった時代は、直接喋って、話していた。徐々に人との付き合い方が変わっている。希薄な関係になってきているのではないか。
・（学校教育自己診断の生徒、保護者の数値のズレに対して）生徒が望むものと、大人が思うものはやはり異なるのではないか。
・大人が求めるものと、子どもたちが思っている見え方、感じ方のズレは仕方ないが、そこは大人が教えていかなければならない。

３.学校教育自己診断の結果について（首席より）
・1・2番の「学校に行くのが楽しい」の生徒の回答はそれほどマイナスになっていないが、保護者の方はマイナスになっていて、若干差がある。
・4・5・6・7・8番、授業への理解などの項目も生徒は増えているが保護者はマイナスがついていて、やはり生徒と保護者の感じ方にずれがある。
・生徒指導についても生徒は増えているが、保護者はマイナスになっている。
今後、生徒、保護者ともに理解して信頼される学校づくりをしていかなければならない。
・教員回答の9番について、マイナスになっているが、防犯・事故・災害が起こった際に考えなければならないということで、今年の１月高槻警察の方を講師に招いて、防犯研修を行った。

４.授業アンケートの結果等について（教頭より）
・今年度、変化する生徒の実態に応じて、より丁寧な学習指導の工夫もあって、「よくあてはまる」の項目のパーセントが上がった。
・中庭ライブの募金活動で１万円ほど集まった（能登半島へ送る予定）。
・クリーンキャンペーンでは焼き芋をふるまった。これからも地域の方との関係を深めていきたい。

５.生徒指導部の組織的な取組について（生徒指導部長より）

・今年度から、１クールに２回以上遅刻した生徒(３学年全部)を、一つの教室に集めて、いろいろな教員がかかわる取組みをはじめている。遅刻だけでなく、携帯電話の使用についての指導なども、担任任せではなく、３学年のさまざまな教員が生徒の話を聞き、指導を行った。遅刻は減少している。この取組みの効果か、たまたまかはまだわからない。一方、遅刻指導が嫌で、欠席する生徒が増えた気もする。もう少し、この形を続けて、結果を分析し、次につなげていく。

（上記について、委員より）

・遅刻の指導について、やり方を変えるのは勇気がいること。担任任せにするより、学校全体で組織的に対応する方が正しいと思う。

６.令和７年度の学校経営計画　(案)について（校長より）

・「１　めざす学校像」及び「２　中期的目標」について確認。

・集団づくり基盤にして、授業において、基礎学力の定着だけでなく、社会的な自立に必要なスキルを育成することを明記。多様な背景をもつ生徒が増えてきていること、子どもたちの人間関係構築力が弱くなってきていることから、学校は安全で安心な居場所となることをめざすということも書き入れた。

・中期的目標には「わかる」、「できる」だけでなく、「学び合える」学習主体の授業を行うとした。

・阿武野高校は、社会の一員として参画していく、そういう子どもを育てる学校である。社会の一員としての自信や、誇り、自尊感情を育てるという文言も明記した。

７.協議、質疑応答について

（委員より）

・市の災害ボランティアセンター立ち上げのシミュレーション研修に参加した。地域の地図を見て、危険な場所をピックアップした。内容は良かったが、参加者が高齢の方のみだった。もう少し若い方、高校生などに参加してほしい。実際何か起こった時、高齢の方が動けるとは限らないので若い人が参加するように勧めていきたい。

・子どもが３人いるが、学校のアンケートがきても、(学校での様子が)よく分からないので答えられない。様子は顔を見ればわかるが、詳しいところが分からない。自分たちの将来を一緒に考えられるような授業があれば、こういう仕事がしたい、こういう視点があるんだ、と学びに繋がって良い。

・世間はインクルーシブ教育で盛り上がっているが、当事者は置き去りになっているのでは、と思うこともある。阿武野高校は手厚く見てくれて、とても良い。不満がない。先生たちが特性を理解・共有してくれていて、それがとても大事だと思った。

（教員より）
・自立支援コース「ぴあ」があることで、生徒も教員も学ぶことがとても多い。友だちとの関係、先生との関係、教員と保護者とのコミュニケーションなどを通して、共に成長していく。

（委員より）
・人々の障がいへの理解について、周りの人の話を聞くと、自分が育ってきたころと比べて、良くなって来ていると感じている。分け隔てなく、障がいを持っているから助けるというわけではなく、困っていたらお互いに助け合っている。良いことだと思った。

８.閉会
・令和７年度　第１回学校運営協議会　の日程について
令和７年６月12日（木）開催　予定

・校長あいさつ

以上